

# 産経新聞の橋本恵史の活動が6月6日付

## 関西の若手音楽家ら楽器など支援

関西の若手音楽家グループが、国内で不要になった楽器を回収し、カンボジアの小学校に寄付、現地での音楽指導を続けている。音楽を教えることができない教師が少ないカンボジアでは、音楽教育自体が浸透しておらず、メンバーたちは「音楽が子供たちの生きる活力になれば」と話している。

## 途上国の子供に音楽の魅力を



カンボジアのソン・ローン小学校で音楽実習に取り組む橋本恵史さん(左)

22日、大阪でチャリティーコンサート

グループは関西を拠点にする23〜38歳の若手音楽家9人が参加する「World Music Project」で、カンボジアを

はじめ、世界各地で音楽活動を広げることが目的としている。テノール歌手、橋本恵史さん(28)は大阪府寝屋川市が中心となっており、成23年に発足させた。

橋本さんらは、不要になった鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの楽器を譲り受

け、23年から25年にかけて、約400本をカンボジア・シエムレアプ州の小学校に寄付。4回にわたり現地を訪問し、コンサートなどを行った。カンボジアでは音楽教育が浸透していないため、当初はコンサートなどを開催しても、「子供たちもどう楽しんで良いのか分からないような様子だった」(橋本さん)という。

ただ、寄付した楽器の使い方や演奏のうちに、子供たちも自分で音を出す楽しさを知り、目を輝かすようになった。

橋本さんは「音楽で貧しさを救うことはできないかもしれないが、明日を生きる活力になる」と思うようになった。現地の学校には、海外などから寄付された電子ピアノなどもあったが、使われずにほこりをかぶったまま放置されている学校も。橋本さんは「単に楽器を寄付するだけでは、支援にはならない」と痛感。橋本さん自身が現地に住み、地元の教師たちに音楽教育のノウハウを伝える取り組みも計画している。

グループは今年22日に、大阪市北区の大阪中央電気倶楽部でチャリティーイベントを計画している。コンサートにあわせ、カンボジアでの活動の様子を映像で紹介。

会場では不要になったリコーダーや鍵盤ハーモニカといった楽器の提供も呼びかける。橋本さんは「みなさんが使っていた楽器が海外の子供たちに直接渡る。見えるかたちで善意を伝えたい」と話している。

問い合わせは、ホームページ(<http://www.world-music-project.net/>)か。